

場所情報コードの概要

場所情報コードとは、特定の地点の位置情報を皆で整備・共有するための新たな基盤です。ある地点がどんな場所で、どんな情報が提供されているのかを、場所情報コードをキーとして呼び出すことができます。

場所情報コードは、通信分野で使われる ucode を利用します。ucode はネットワーク上でモノを識別し情報を結びつけるためのコードで、機械が読み取って情報を呼び出します。国土地理院では、この ucode に位置による分類を加えて「○○の位置にある△△」のように固定された地点を識別して、その地点の情報を結び付ける仕組みを構築しました。このような分類を行うことで、特定の地点やその周囲の情報を効率的に呼び出すことができるようになります。また、媒体の種類によらずコードだけで位置を表現することができるため、通信を行わずに概略の位置を把握したり、屋内外で位置情報をシームレスに扱えるようになります。

場所情報コードの様々な位置情報サービスにおける利活用イメージを図1に示します。

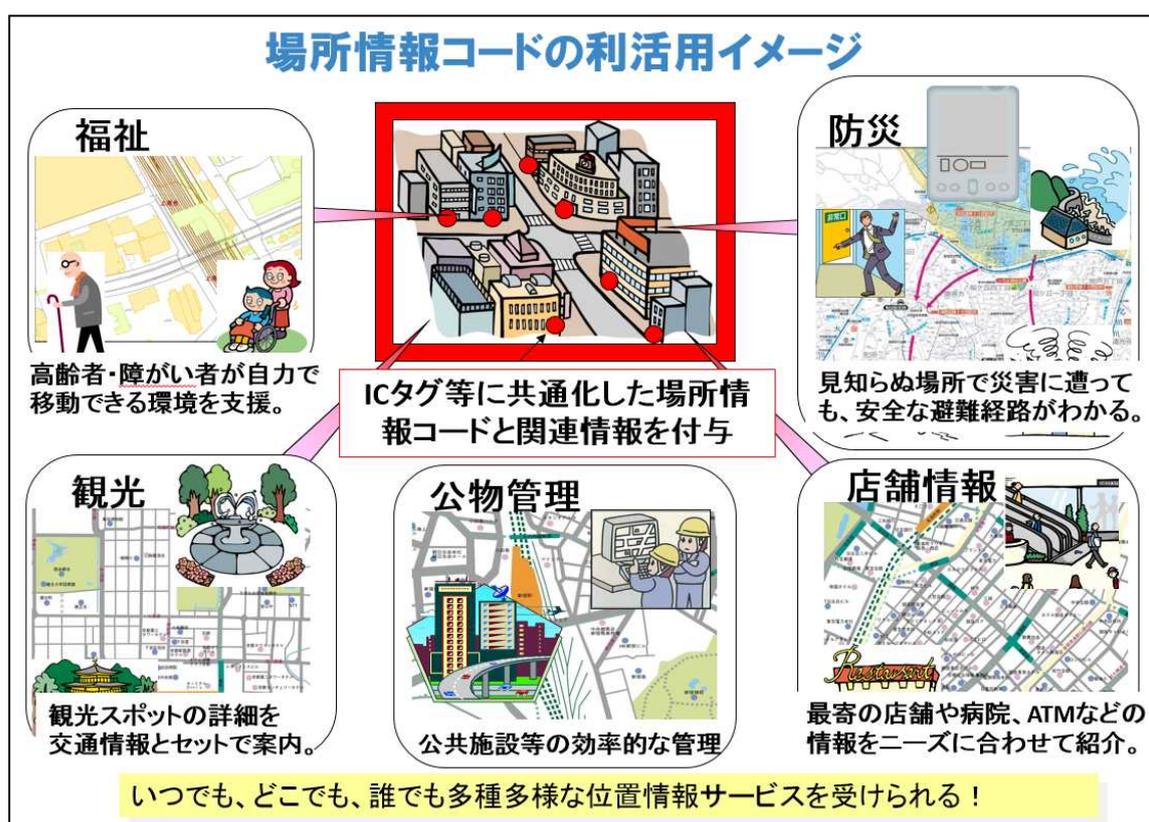


図1：場所情報コードの利活用イメージ

場所情報コード閲覧システム <http://ucopendb.gsi.go.jp/ucode/index.html>
 同 スマートフォン版 <http://ucopendb.gsi.go.jp/ucode/sp/index.html>